

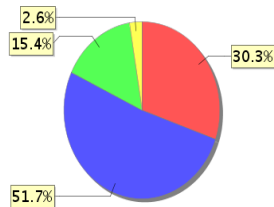
後期授業評価『学生から教員の方々へ』

令和元年度前期に学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

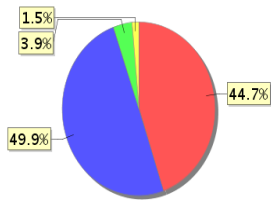
□ 講義系授業の結果

● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

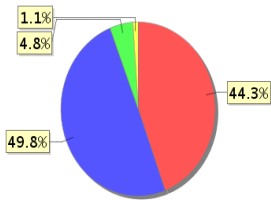
シラバスを読みましたか



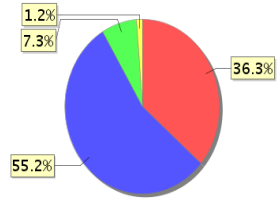
シラバスにそっていましたか



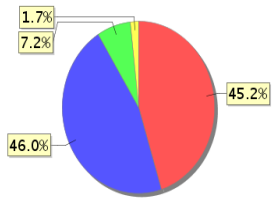
知識・見方を学べましたか



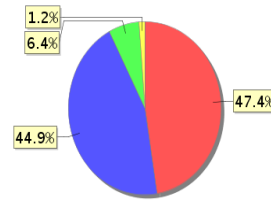
理解できましたか



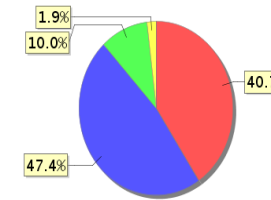
話し方は明瞭でしたか



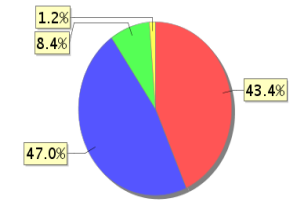
テキストなどは効果的でしたか



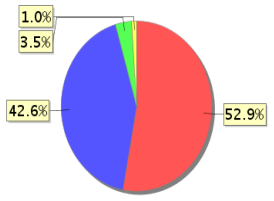
文字などは見やすかったですか



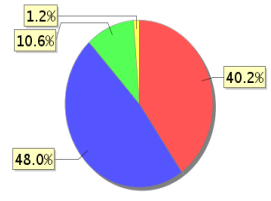
重要なところを強調してもらえましたか



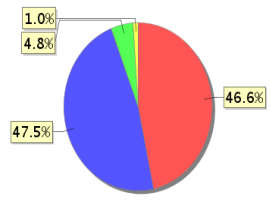
熱意や誠意が感じられましたか



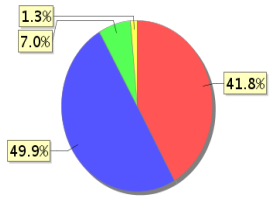
教員が参加を促していましたか



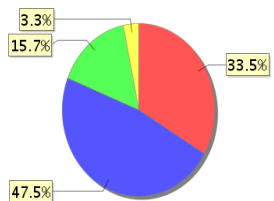
教員が静粛さを保とうとしていましたか



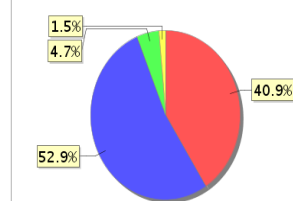
あなたの受講態度は



授業以外の時間に学習しましたか



授業を総合的に評価すると



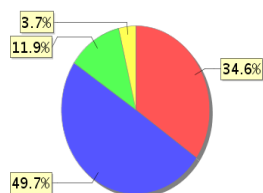
● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

● とても良い ● だいたい良い
● あまり良くない ● 全く良くない

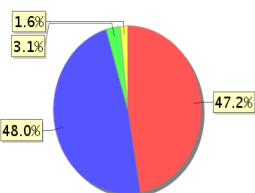
□ 実技系授業の結果

● しっかりできた ● だいたいできた
● あまりできなかった ● 全くできなかった

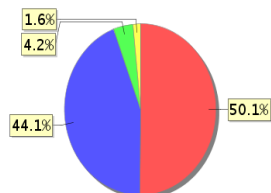
シラバスを読みましたか



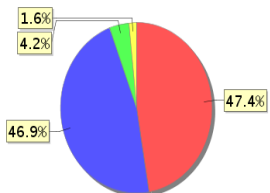
シラバスにそっていましたか



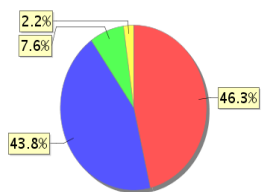
知識・見方を学べましたか



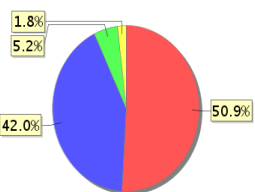
専門知識・技能を得られましたか



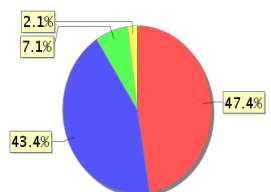
理解度・進度をよく見ていましたか



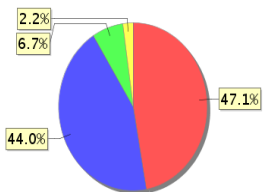
話し方は明瞭でしたか



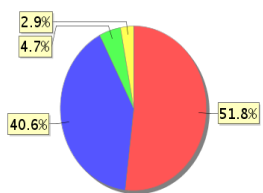
テキストなどは効果的でしたか



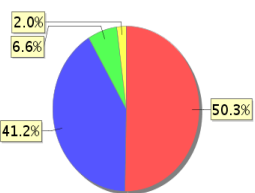
指導が充分受けられましたか



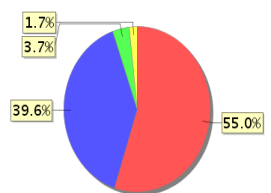
公平に対応していましたか



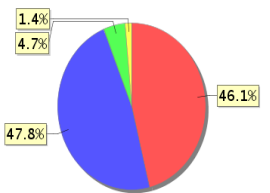
重要なところを強調してもらえましたか



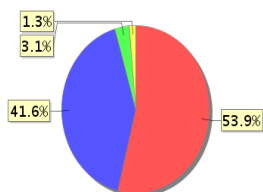
熱意や誠意を感じられましたか



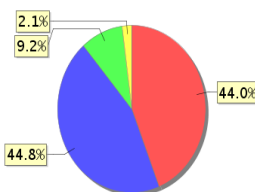
教員が静粛さを保とうとしていましたか



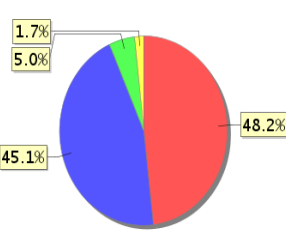
あなたの受講態度は



授業以外の時間に学習しましたか



授業を総合的に評価すると



<今回の結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 93.8%、実技系 93.3%となっており、多くの授業が学生によって肯定的な評価を得ていました。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 91.7%、実技系で 95.5%と、昨年度後期と同程度に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 94.1%、実技系で 94.2～94.3%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度と同じように新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、91.5%の人は授業内容を概ね理解できており、昨年同時期(88.4%)と比較すると理解度が少し上がりました。

講義系の“授業以外の学修”については、他の項目に比べて達成度が低く、従来からの課題です。授業時間外の予習や復習が出来なかった学生の割合は、昨年度後期 23.9%→今年度前期 14.8%→今回(今年度後期 19.0%と変化してきており、少しずつではありますが授業時間外の学修が習慣化してきているようです。“シラバスを読んだ”人は昨年度と同様に、講義系で 82.0%、実技系で 84.3%と多く、シラバスの確認も定着してきています。授業を受ける前に授業の全体の流れを把握し、授業目標や到達指標を意識して取り組むことは、学修計画を立てる上で有効な方法です。毎回の授業内容や小テスト、レポート提出時期などを踏まえて学修計画を立て、取り組みましょう。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 88.1～92.3%で、多くの学生にとって満足度の高い授業であったようです。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要なところの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 92.9～90.8%と、従来通り、高評価を得ていました。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについても、講義系で 88.2～95.5%、実技系で 93.9～94.6%と多くの学生から肯定的評価を得ていました。今学期の授業評価の対象となった科目はこれまでと同じく各学科の常勤・非常勤の多くの教員がそれぞれに担当しており、それらの授業の受講学生の約 9 割以上から肯定的な評価が得られたということは、本学教員による教育の質の高さを示すものです。本年度後期もこれまでと同じように多くの教員が熱意をもって学生にとって満足度の高い授業を行っていること、そして学生たちにもそのことが伝わっているということが以上の結果に示されています。

後期授業評価『教員から学生の皆さんへ』

令和元年度後期授業評価に対する教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 社会的養護内容

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価から検討すると、項目ごとにも及第点をいただいている。社会的養護内容は、前期の社会的養護の学修の積み上げに、施設内における子どもの生活や思い、関わる職員の心構え等を演習する授業となる。

対象の学生は、知的好奇心が強く、理解できない箇所は質問等をしてきていて、閉ざされた施設内の取組や課題を理解するのは難しかったと思われる。ボランティア活動等に出向き、多様な社会を実感する中で、後追いでもいいので、この科目で学修したことが思い出され、現場の理解に繋がれば幸いである。

2. 今後の授業における目標

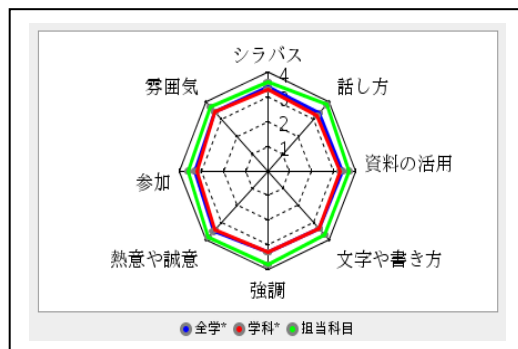
学生と教員のコミュニケーションを大切に努めていきたい。

身近なテーマをもとに演習をより積極的に導入していきたい。

自らも、引き続き、現場に出向き、現代的な課題を発見し、掘り下げ、得られた知見等を授業に活かしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

3年生になると施設実習が実施される。講義系の学習は、どうしても受動的になりやすく、配布資料の書き込みだけで終わってしまうことが多いと思うので、各地域での施設のお祭りなど行事がある場合は、ボランティアとして積極的に参加するなど、授業時間外の学習の充実に取り組んでほしい。そして、現場の生の姿から、大学では学びきれない実学を学んでほしい。



◆ 保育内容の指導法（音楽表現）

1. 授業評価の結果に対するコメント

この授業は卒業必修であり幼稚園教員免許状取得のための必修科目となります。自己評価の取組に関する評価が低いことに関して、みなさんに授業の必要性をしっかりと伝えきれていなかったと反省しています。教員の取組に関する評価では次の2点を改善していきたいです。

- ① 音楽という科目は個々の知識・技能に個人差があります。また、一斉授業では教授し辛い内容が多く、別の習熟度の把握等もし辛いです。しかし、受講者全員に満足してもらえるような授業展開ができる



ように、日々みなさんと向かい合い、意見を取り入れながら授業を工夫し改善をしていきたいです。

- ② 45 人が音楽の授業を一つの教室で受けるという教育環境を整備していく必要性を感じました。2 クラスに分け指導が行き届くようにする、楽器を人数分確保する等、今後はできる限り改善できるように検討していきたいと思います。

2. 今後の授業における目標

来年度以降はこの授業内容は他の科目に移行されていきます。しかし、音楽関連科目はたくさん残ります。今年度の授業評価を参考にし、全員に個々に対応した授業ができるよう、創意工夫を凝らして授業を行っていききたいです。

3. 受講学生に対する要望

音楽に関する授業は、受け身ではなく参加することによって修得する内容が広まります。めんどくさいと思わず、積極的に楽しく授業に参加しましょう。

◆ 乳児保育Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

学科平均よりも高い評価の値となりとても満足しています。特に取組に対する評価が平均してよい値だったことが嬉しいことでした。授業コメントに「楽しかった」という言葉をたくさん頂きました。未満児を相手にする大人は愛情を持って心を寄せることが何よりも大切だと考えています。制作や参

加型の授業では、みなさんの豊かな感性で授業を盛り上げてもらえた、みなさんのおかげで楽しい時間になったと感謝しています。子どもの心に寄り添う先生になりたいと思うみなさんの意欲と優しい心をいつも感じながら授業をしました。15 回ともいい笑顔で授業に取り組んでもらえたことを幸せに思います。

2. 今後の授業における目標

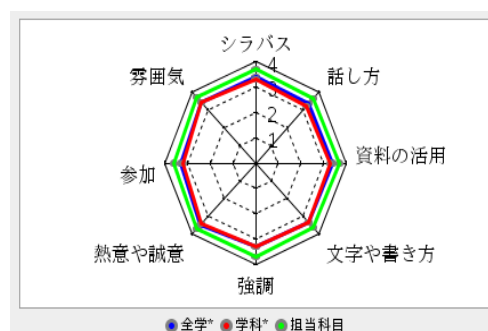
0,1,2 歳児の発達を目をみはる早さです。その一つひとつは人間の一生を決めてしまうほどの重要なもので、育て関わる大人はそうしたことを知っていなくてはなりません。学生のみなさんは実際に我が子を出産する経験のある人はほとんどなく、それでも子育てをする知恵や知識を専門職として学んでいく必要があります。

全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定です。保育所にいる子どもたちの中で、お話をすることがまだできない“未満児”と呼ばれる乳児に対して、“寄り添って保育する”とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し実践できるようにしたいと思います。とくに“遊び歌”“わらべ歌”など 1 対 1 で遊ぶ保育技術をお伝えできるようにしたいと思います。また、2 年生の子育てサロンへの参加へつながる地域子育て支援についても触れていきたいと思っています。

3. 受講学生に対する要望

「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるようにして頂ければと思います。

安全に対する配慮だけでなく、おおらかな心とやさしい気持ちを持つことは乳児を保育する者にとって何よりも大切だと考えています。自分の持っている力を信じて、自分自身によいイメージを持って授業に臨んでほしいと願っています。

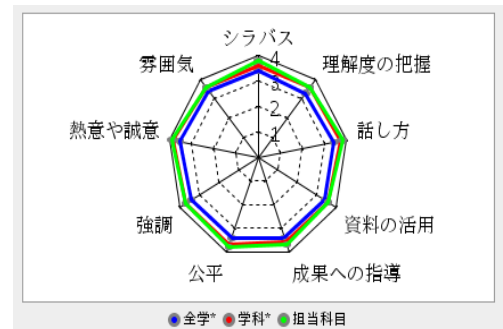


◆ スポーツ演習Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価の結果を受けて、総合評価 3.7 ということで担当者として楽しく嬉しい結果となりました。

第1回目の講義内容では、ガイダンスを入念に実施し、受講生自身が科目の内容を理解して取り組んだ結果だと思われます。ありがとうございました。



2. 今後の授業における目標

教養科目の選択科目であり、「スポーツ」という名称から運動が苦手な学生を選択枠から外されることになりかねないのではないか。しかし、シラバスを熟読していただき、誰でも気軽に取り組むことができる軽スポーツを取り入れているため、体と心を動かし、運動を通してコミュニケーションも図ることができる素敵な科目であり続けるように。

3. 受講学生に対する要望

自分らしく参加していただき、楽しく学ぶ姿勢を忘れずに。

◆ 保育内容の指導法（造形表現Ⅱ）

1. 授業評価の結果に対するコメント

>>様々な制作をしたり、指導案を書いたことで実習や就職してから子どもとやってみたいと思う活動のアイデアを得ることができた。

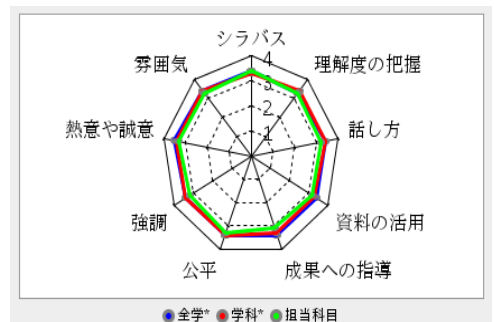
>>指導案ばかり書いていたけど、技法とかいろいろ教えてほしかった。

「講義や指導案作成と制作時間のバランス」について意見が欲しいとアンケート前にお願ひし、以上2つの意見をいただきました。保育内容の指導法（造形表現）という授業の名前もあり、指導案を中心に様々な活動を体験してもらいました。モダンテクニック（技法）は前期にスパッタリング、ドリップング、デカルコマニーを3つ行い、後期はフロタージュの一つだけに触れました。後期にもう少しやってもよかったかもしれません。受講者が満足するような講義と制作のバランスについて努めていきたいと思います。

>>授業中、静かな雰囲気を保とうとだれかが喋っている時は静かになるまで待っていて集中できる環境を心がけていたのが印象的だった。

>>注目してほしい時に壁を叩かないでほしい。怖いです。

以上2つの意見「制作や講義に集中できる環境を保つこと」について、今後もますます努めていきたいと思います。意見にあった通りまた別の方法で注目してもらおうと思います。（ベルを鳴らすとか）



2. 今後の授業における目標

実際に作ってみる制作の体験と、指導案にまとめる活動の計画についてなるべく地続きで行えるような授業を今後も目指していきます。

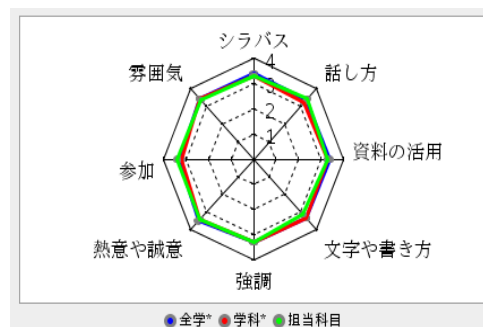
3. 受講学生に対する要望

ワークショップではびっくりやワクワクを大切にしています。また講義や指導案の作成ではじっくりと落ち着いてを大切にしています。オン/オフの時間を意識し一緒に制作/講義の環境を作っていきます。

◆ 保育内容（環境）

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・自然の中での直接体験がどんどん失われている中で、今年度、学内の畑で、学生がさつまいもの苗を植え、みんなと一緒にさつまいも掘りを楽しみ、自分で収穫したさつまいもを家に持ち帰り、調理して味わうという授業を取り入れたことに対して反響があったのが嬉しかった。
- ・学生が子どもたちと一緒に楽しむことのできる活動の経験値をあげるための「さつまいもの収穫」や「自然物を使った活動」に対するコメントや評価があったのがよかった。
- ・学生に視覚的に訴えるように、現場での環境構成や活動等の写真やプレゼンを多用した。一部、見にくかったり、意図が十分伝わらなかった部分があったりしたのが残念であった。



2. 今後の授業における目標

- ・保育内容「環境」において、再課程認定の中で、演習・5感を通しての直接経験を取り入れることが求められている。今まで以上に、みずきの郷や畑など、可能な限り有効利用して、実習や現場に出た時の経験値があがるような自然に直接触れることのできる授業内容を取り入れていく必要がある。

3. 受講学生に対する要望

- ・真面目にほとんど休まず、出席している学生と、いろいろな事情で欠席する学生とが極端であった学年である。授業に対しても、素直に喜んで活動して楽しむ学生と、構えてしまう学生がいたので、何事もプラスに考え、楽しむ気持ちで授業に取り組み、実習や現場に活かせるような学びを深めていくて欲しい。

【 音楽総合学科 】

◆ 卒業演奏Ⅱ

(受講生少数のため、レーダーチャートなし)

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・複数の学生が伴奏合わせのレッスンを希望している。
⇒ 伴奏とのバランス、アインザッツを整えるなど有益であるため次年度より取り入れる。
- ・私の他に、鈴木先生も担当しているため、指摘内容の違いで戸惑う学生がいる。
⇒ 前もって鈴木先生と方向性を共有するか、どちらか一人の担当にするか要検討。
- ・毎回提出する用紙について ⇒ 私は用紙提出を課していないため鈴木先生への記述では？

2. 今後の授業における目標

上記の通り、改善要望記述に関しては可能な限り改善し、有益であったとの記述に関しては継続して行っていく。

3. 受講学生に対する要望

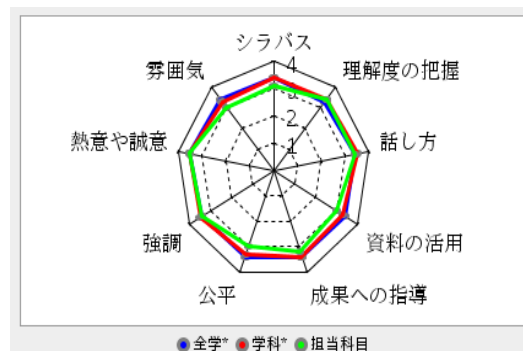
取り組む姿勢として、受動レッスンのみならず、能動的なレッスンとなるよう心掛けて下さい
疑問に思う指摘等があった場合は必ず尋ねて下さい

◆ リペア応用（金管Ⅱ）B

1. 授業評価の結果に対するコメント

担当科目の評価が、3.4と学科、全学科とも同数であった事については、決して満足する数値ではなかったと感じます。所感ですが、今回のクラスはまとまりに欠け、協同作業がなかなかできない様子で、座席に関する要望等も多くありました。席替え等で対応しても改善せず、此方としても非常に悩みました。授業の進捗にも影響が出たと感じます。

更に、特別な配慮が必要な学生への接し方についても不十分であったようで、他学生との兼ね合いも考えて接することが今後の課題となります。



2. 今後の授業における目標

例年、シラバスに対する評価が低いですが、持ち上げる策が見つかりません。

授業毎に見るものではない意識が強く、また、学生のレベル差によって、同一テーマで授業を進める事が出来ず、個々の進行に合わせて授業を進めていますので、シラバスとのギャップが生じている事もあって見ない。というようになっていると思います。評価中にもありますが、公平さが低い事を受け、今後は公平性を高く持ち授業に臨んで行きたいと思っています。

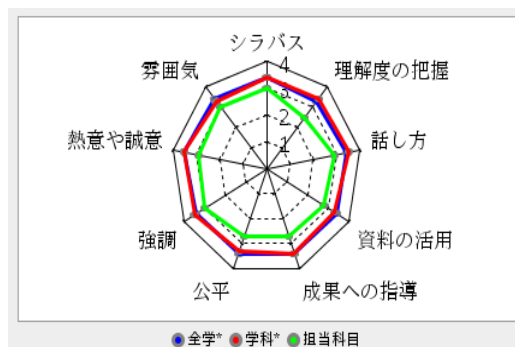
3. 受講学生に対する要望

進路を一般職へ考える学生は、技術向上ではなく、授業さえ出れば卒業できる。という意識が芽生え、授業中寝てしまう。やる気のある学生は、その光景が気に入らない。理想としては、教室を分けるのが良いですが、何かに興味を持たせ、協同で作業をする様に授業を考えて行きたいと思っています。が、やる気のある学生は、それでは満足しない事から、（今でも行っていますが）授業外のウエイトを高くしていきたい。

◆ ウインドアンサンブル

1. 授業評価の結果に対するコメント

学外演奏での演奏活動に参加できてよかったというコメントから、特に小学校の本番について大変有意義な活動であると再認識できた。その反面、授業の半分以上が学外演奏の練習時間にとられている現状を改善していきたい。また、コースによる学生の様々な意識の違いをどう解決していくかが今後の課題である。



2. 今後の授業における目標

来年度は、実質の授業時間が、一時間減ることもあり、学外演奏にかかる時間を効率的に工夫し、本来の授業目的である様々なジャンルの音楽を体系的に学ぶことに力を入れていきたい。

また、多様化する学生の意欲にこたえるべく、服部先生や非常勤の先生方の力をお借りして、様々な場面で講義をしていただくよう計画していこうと考えている。

さらに、定期演奏会が12月開催の予定であり、4月から計画的に準備を進めていきたい。

3. 受講学生に対する要望

学外演奏や、定期演奏会と発表の場が多くあります。計画的に準備を進めていきましょう。
また、それぞれの先生から多様な音楽へのアプローチの仕方を学びましょう。

◆ リペア基礎（木管）Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

概ね全体的に高い評価については良かったと思う、シラバスについては昨年より評価はよくなり随所において説明をしたのが評価につながったと思う。今後もシラバスの重要性をわかりやすく説明し、確認する習慣を身に付けるようにしたい。授業外についてはもう少し取り組んでもらいたい、全体的に復讐するような雰囲気作りや環境作りを今年度よりしっかりと行い、技術の向上に努めたい。

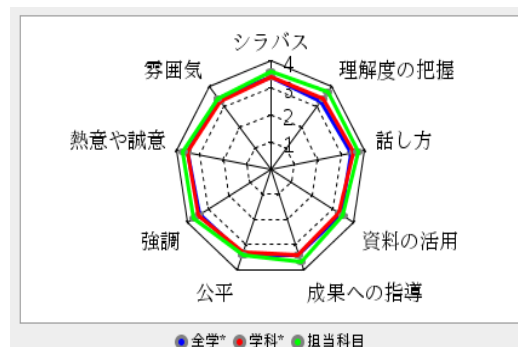
教員の取り組みについては、昨年同様に雰囲気が全体の中で低い評価になっていた。個人個人の性格を早く見極め、それぞれに合った対応をするとともに全体の雰囲気作りを今一度振り返り問題点を見つけ改善し学生一人一人に満足していただける授業作りに邁進したいと考える。

2. 今後の授業における目標

授業全体の公平さ雰囲気を大切にして、しっかりと一年を振り返り学生全員が前向きに取り組めるような工夫し授業に集中できるような環境作りに努力したい。また入学当初から積極的に声を掛け学生のコミュニケーション能力を高め早い段階から意思疎通が出来るような関係づくりを心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

すべて初めて学ぶ技術や知識などで、多くの事を覚え身につけていかなければなりません。疑問や質問などは後回しにせずその場で解決してください。覚えた技術を身に付ける為には何度も繰り返し同じ作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使ってもらいたい。



【 デザイン美術学科 】

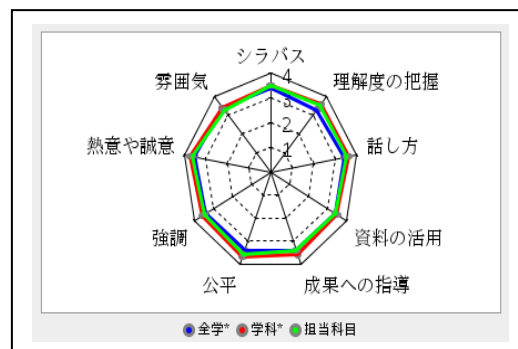
◆ グラフィックデザイン基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

おおむね平均的な授業ができたように思います。その中でも自分の専門分野に深くかかわる本授業において、新しい知識、ものの見方という項目で少し突出した点数を学生からもらったのは良かったです。

2. 今後の授業における目標

本学へ入学した学生が求めている就職への支援に直結したような課題作品（ポートフォリオに入れることが目的の）を優先的に取り入れるように修正します。その学習の中でこれまでのように教養や生活力にかかわる内容を入れていこうと考えています。これは非常勤の先生と相談して決めたので、評価を反映して決めたのではないですが、これによって設



問 4～13 の少し点数の低い項目にプラスになると考えています。

3. 受講学生に対する要望

学年によって学生の傾向が違うので、それを毎年楽しんでいます。

しかし数年ではありますが毎年、全体に思うのは、様々なことにおいて積極性に欠ける学生が多いことなので、それは呼びかけていきたいです。言ってすぐ直るようなことではないですが、何年か後に届ける気持ちで伝えていきます。

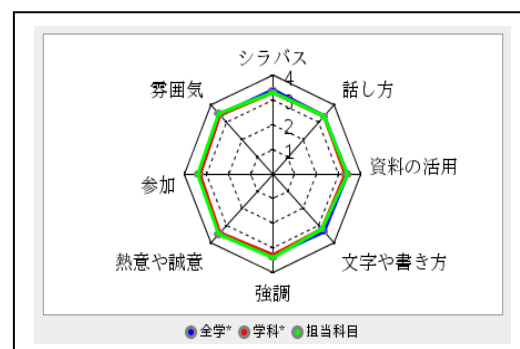
【 歯科衛生学科 】

◆ 小児歯科学

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生から教員の取組みに対する評価において、「シラバス」「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「重要な点の強調」「熱意や誠意」「学生の授業参加」「授業の雰囲気」の全 8 項目において、3.2 から 3.5（4 点満点）の評価点であり、いずれも学科の平均以上の結果で学生からの良好な評価を得た。また、学生自身の自己の取組みに対する評価においても、「シラバス」「学ぶ」「学修理解」「授業態度」「授業外学修」の学生自身の評価で 3.2－

3.4（4 点満点）であり、5 項目全てにおいて学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。



2. 今後の授業における目標

予習・復習を含めて授業時間外での課題設定を実施し、学生と教員との双方向の授業にできるように今後一層努め、学生への質問やグループワークによる学習の導入を今後とも実施する。授業の中で「どの部分がわからないか」、「わかりにくかった点を再度説明してほしい」、さらに「自分でここまで調べた結果、なおわからない点がある」というように、質問する意図を学生自身が明確化し、質問しやすい授業の雰囲気にしていくように取組みたい。学生自らの学習意欲を引き出す「正の強化による自発的行動変容」に、よりいっそう力点をおいた教育を継続的に展開していく所存である。

3. 受講学生に対する要望

将来の歯科衛生士として歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともにシラバスの記載通りに予習・復習をしっかりと行って、授業に積極的に出席する事を要望します。

各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館やWEB等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室 (G204) まで問題点を整理して聞きにきてください。

◆ 診療補助基礎Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価である総合評価は、平均的であったが、学生自身の「学ぶ」「知識や技能」に関しては、平均より高い評価であった。この実習では、相互実習のなかで、複数の歯科材料を扱った実習のため、材料の性質を理解したうえで取り扱う実習である。また、術者や患者を体験しながら、特に患者への配慮についても考えていく実習でもある。

そのため、1つ1つを積み重ねて、前回の反省と復習をしながら技術を修得し、講義や実習を進めて行くようにした。学生のなかで、「今後多くの必要となる知識や技術を身につけることができた」とコメントしている学生がいたことは嬉しいことであるが、個人差が非常にでる実習でもあるので、個々の指導に関しては、今後の検討が必要であると感じた。

2. 今後の授業における目標

これからも1つ1つを積み重ね行く実習を続けていきたい。しかし、予習プリントができていない学生や提出物が期日に出せない学生がいる。このことは、社会人としての常識を身につける1つとしても、決められたことができるようになる方法を考えていきたい。

3. 受講学生に対する要望

できなかったことは、先延ばしせずに質問や空いた時間を使って、練習や復習をして次のステップに臨んで欲しいと思います。また、掲示をしっかりと確認し、当日準備不足がないようにして授業に臨んでもらいたいです。



◆ 歯周病予防技術法Ⅱ

1. 授業評価の結果に対するコメント

『自己の取り組みに対する評価』においてほとんどが平均であった。「授業外」は0.1高かった。初めて使用する器具器材があり、授業外に練習し修得する学生がいた。自ら進んで学ぶ姿勢に感心した。『教員の取り組みに対する評価』においては、平均～0.2高い評価であった。「話し方」は学生に分かりやすく早口にならないよう気を付けた結果0.2高い評価をいただけたと思う。

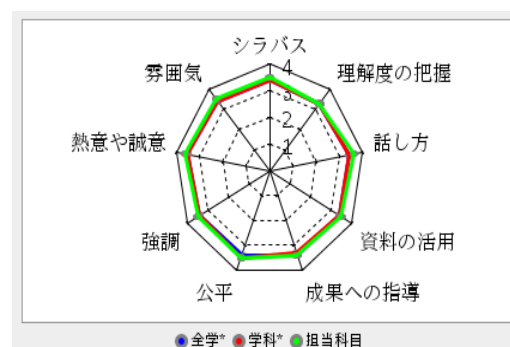
2. 今後の授業における目標

『教員の取り組みに対する評価』の「理解度の把握」は平均であったが、学生の理解にばらつきがあるため全体を把握し授業をすすめるよう努めていきたい。

授業外での練習は一部の学生であるため、学生全体に呼びかけ練習し修得できるようにしたい。

3. 受講学生に対する要望

わからない時は、わからないままにせず質問しに来てほしい。



◆ 保健指導法

1. 授業評価の結果に対するコメント

「自己の取組に対する評価」の授業外については、特にこの科目では授業外で行う課題が多く学生の皆さんは努力をされたと感じています。その点から考えるともう少し自己評価が高くてよかったのではないのでしょうか。

「教員の取組に対する評価」については、実技系科目は

2 コマ続きのため、グループワークを取り入れ学生同士

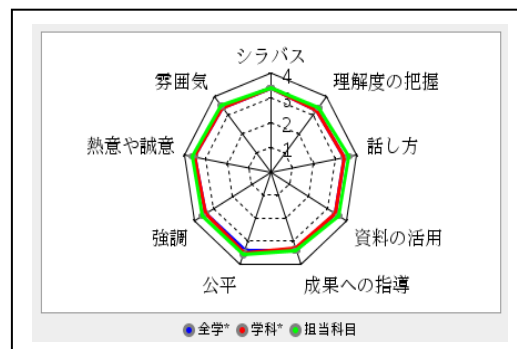
の話し合いや座席を移動するなどしてリフレッシュできる環境づくりをしました。強調や話し方の評価では、「大切なことは繰り返し何度も伝える」、「ゆっくりわかりやすく発音する」そのようなことが雰囲気、強調、話し方などの評価につながったのではないかと考えます。

2. 今後の授業における目標

授業外での学修については、オフィスアワーの時間を活用して個別に対応することで、学生の進捗に沿った適切なサポートを行いたいと考えています。学生の「理解度の把握」や「成果への指導」については、単元ごとの到達状況を把握して、その結果をフィードバックしながらより理解を深めていけるような授業の展開をすることとします。スライドやグループワークについては、授業内での活用方法を工夫しながら今後も積極的に取り入れていきます。

3. 受講学生に対する要望

- ・理解できないことがあれば、授業内外問わず質問をしてください。
- ・授業外での学修は期日を守り一つずつ確実に進めていきましょう。



【 看護学科 】

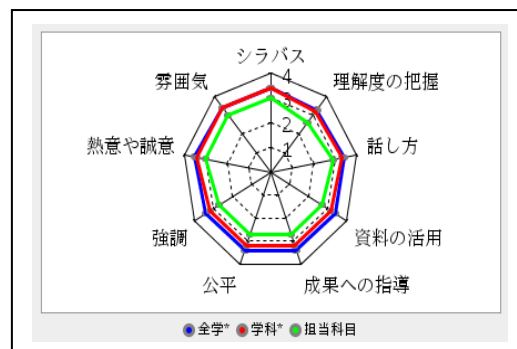
◆ 在宅看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

この科目は演習科目であり、講義で理論的な枠組みを改めて復習しながら、看護過程を実際に展開する形で授業進行を行った。学生は、授業の予習復習を積極的に行い、授業での演習への取り組み姿勢は前向きであったと考えている。一方で、教員の取り組みに対する評価は厳しいものであった。

自由記述を概観すると、グループワークで他の学生や他のグループの意見を聞く機会があり、理解が深まったという意見もみられたが、グループワークの成果物の正解や看護過程の見本が欲しい、在宅看護のことが理解しきれなかったという意見も散見された。

在宅看護においては、特に、病気からの回復だけでなく、地域の住み慣れた自宅で「病気や障害と共に暮らす」という非常に個別性が高い答えのない看護を追求する。したがって、看護の姿勢としては、正解ではなく、最適解を求めていくプロセスが看護であるということを伝えたいと考えていたが、うまく伝わらなかったと考えられる。チームで看護を考える練習の場でもあったが、その意図もうまく伝わらなかったと思われる。口頭及び、授業資料として配付しながら伝えたが、別の方法や繰り返しの伝達が必要だった可能性がある。



2. 今後の授業における目標

授業運営の意図について、口頭や授業資料で配布して伝えていたが、今後は、繰り返し伝え、学生に確認をしながら進める必要がある。

記名式の毎回の授業カードでは、理解できている旨の記載が多かったため、無記名で記載できる授業カードの検討も必要かもしれない。

グループワークやディスカッションを取り入れた形式での授業進行だけでなく、他の教育方法のトライアルを行うことも試みていきたい。

3. 受講学生に対する要望

グループワークに取り組む姿勢は、想像以上に前向きで、たくさんの意見が出て、とても素晴らしいと考えている、この姿勢をこれからも貫いてほしい。また、授業評価では、辛辣な意見も忌憚なく頂戴できたことに感謝している。もし可能でしたら、授業カードで発言してもらえるとタイムリーに授業改善ができるので、日々の授業カードでもコメントをいただけると、より嬉しいと考えている。

◆ 看護医療安全管理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

この科目のシラバスに示した目的・内容について、学修できた様子を授業評価の記録及び試験の評価で確認いたしました。また、最初の授業で述べた学修の留意点である、グループワークに積極的に参加し医療安全について、考えを深める取り組みもできていたことが分かりました。

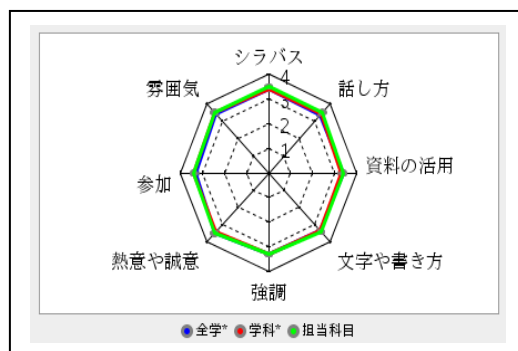
人の命と向かい合う医療の場において、医療安全は最優先課題となります。対象を守ると共に看護職としての自己を守るための学びです。今後も 365 日 24 時間にわたり対象の最も近くに位置し医療の提供者となることが多い看護職の役割の大きさを認識して医療安全に留意できるよう注意力を磨き学びを深めていただきたい。

2. 今後の授業における目標

これで、大垣女子短期大学 看護学科の看護医療安全管理学の授業は終了となります。今後、岐阜協立大学での医療安全学でも、学生から頂いた授業評価を活かし、この科目が生涯にわたり医療に携わる看護専門職者において重要な学修として位置づくよう教授していきたい。

3. 受講学生に対する要望

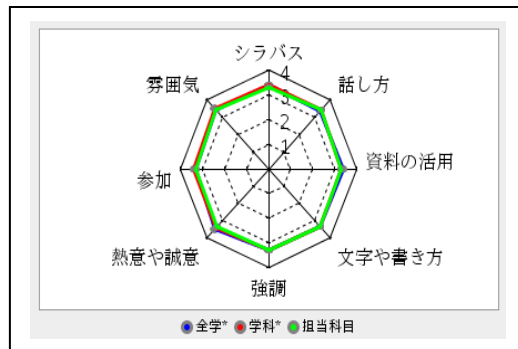
特にありません。



◆ 看護関係法令

1. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度実施したグループワーク（以下、GW）への取り組みに関する自己・他者評価実施後のアンケート結果をふまえ、評価の目的、内容、評価方法について説明しGW評価を実施した。結果は昨年と同様で自己評価について、自己を客観的にみることが難しいと感じている学生がいる一方、自分のことを振り返ればいいから。今までもしたことがあるから。分かりやすい評価方法だったから。など自己評価は難しくないという意見が多くあった。し



かし他者評価との違いが大きい学生も見られた。他者評価でも昨年と同様に、悪い評価をつけづらい、グループ全員をよく観察しなければならない、他者評価をした経験があまりなく自分の基準でいいのか分からない、日ごろの仲間意識が出るなど、他者評価は難しいと感じている学生が多かった。一方で、同じグループのメンバーを評価すればいいから、そのまま正直に評価すればいいから別に難しくはないとする意見も散見した。よいところ、悪いところを評価し次の GW でみんなで取り組めるGW後の評価は必要だと思うという意見もあった。また、チームに協力しようという思いや、高い評価を得たいという思いを持つようになったとも答えていた。

今回の学生評価に、GWの人数が多すぎる、まじめに行う学生とそうでない学生の差がある、などの指摘があった。GWの授業効果を高めるためにメンバーや人数を検討する必要があるが、GWを用いた教授方法の工夫をする必要があると感じている。総合評価は平均的評価を下回る結果であり、今回のアンケートから得られた課題を解決し、学生の興味、理解を得られる授業展開をしていきたい。

2. 今後の授業における目標

今期も学生の主体的な学習を促すために、グループワークに重点を置き授業を展開した。今回のアンケートから得られた問題を分析し、グループメンバーの構成や進め方を工夫し、学修目的を明確にし、学修効果を高め学生の満足が得られる授業となるようすすめていきたい。

3. 受講学生に対する要望

看護専門職となるべく学んでいることを忘れず、主体性を持って授業に臨んで欲しい。

◆ 成人看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

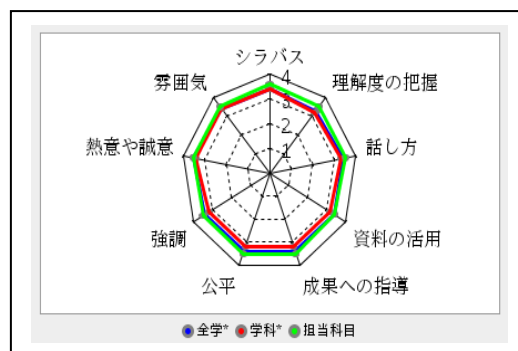
「自己の取組に対する評価」および「教員に対する評価」について、特に問題ないと思われる。

2. 今後の授業における目標

今年度で短期大学の授業は終了したため、今回の授業評価で受けたことを参考に大学での授業・演習に活かしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

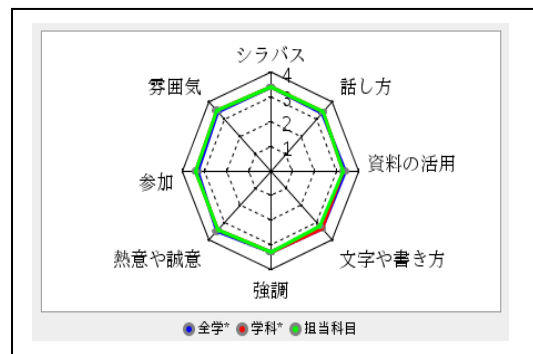
与えられた課題のみでなく、自ら課題を持って自己学習に臨んでほしい。



◆ 小児看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

学生が自ら学び・考えることができるよう、今年度も、まず課題について学生が個々に取り組み、授業で他学生とディスカッションし自己の課題を追加・修正し仕上げる形式をとった。また、DVDを用いた事例紹介、実習室で実際の病室を想定したロールプレイング&ディスカッションを取り入れ、学生が援助場面をイメージしやすいよう、授業方法を工夫した。学生の課題への取り組みは概ね満足できるものであった。学内・全学と比べるとほぼ同等の評価ポイントであったことから、他の教科に比べ特に不足はないようであるが、どの教科も同じように評価する学生の傾向による



ものともいえる。

自由記述の内容や授業後のレポートでは「わかりやすかった」「実習の様子を想像することができた」「分析がうまくできなくて悔しい思いをしたが仲間や先生のアドバイスによりやり方がわかった」などの意見があり、授業方法に対する学生の満足度は低くはなかったようだ。何よりも「あまり子どもが好きではなかったが、授業を通して子どものことをもっと知りたいと思った」「その子にあった看護展開ができるようになりたいと思えた」と記述している学生もあり、今後の小児看護学実習に向けての意欲向上につながる授業となったことをうれしく思う。しかしながら、自由記述で「面倒くさい」「課題が多い」との少数意見もあった。主体的に取り組めていない学生への動機付けが今後の課題である。

2. 今後の授業における目標

短大生に向けた授業は今年度で終了となる。今後は大学での授業となるが、今回学生の反応で手応えのあったディスカッションやロールプレイングを活用し、学生が子どもや家族といった対象や援助場面をイメージし小児看護についての興味関心が深まるよう、授業方法を工夫していきたい。

3. 受講学生に対する要望

「見本」や「答え」を求める学生が相変わらず若干名いる。疑問点があっても質問に来ない。まずは誰のための学修なのかを認識し、主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。

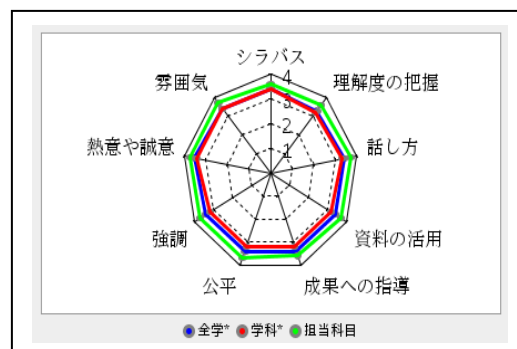
授業中自ら発言する積極性を身につけてほしい。

解剖生理や病態学など1年次で学んだ知識を十分につけた状態で講義に臨んでほしい。

◆ 母性看護演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

- ・授業の中で、毎回知識の確認テストを行ったことや、視聴覚教材、模型、モデル人形を使用して講義を行ったことが、学生の学びや技能の修得につながったと考える。
- ・私の臨床経験や現在の臨床現場の情報を伝えることが、学生の関心、意欲を高める機会になっていたと考える。
- ・実習場面を想定したロールプレイ演習を行い、その中で学生間の意見交換を積極的に取り入れたことが、知識や技術の修得、講義を受ける上での積極的な態度に成果として現れたと考える。



2. 今後の授業における目標

- ・シラバスの内容について、学生の認識が乏しいと考える。授業前の予習、時間外の自己学習を主体的に取り組めるよう、今後は授業開講前及び毎回の授業毎に、助言する必要があると考える。
- ・母性看護に関する社会の動向や、臨床現場の現状等を講義の中に交えていきたい。それにより、学生が母性看護をより身近なものとして感じ、関心を持って授業に臨んで欲しいと思う。

3. 受講学生に対する要望

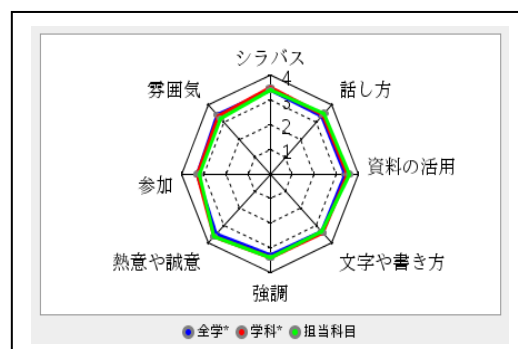
- ・オフィスアワー等を利用して、積極的に教員に質問してほしい。

【 非常勤講師 】

◆ 教養科目：くらしの科学（物理・化学）

1. 授評価の結果に対するコメント

すべての学生さんが毎日の生活の中で実体験している様々な現象や商品を科学的な視点で見ることができるきっかけになっていると感じます。生活の知恵や生活の中で起きうる危険な現象（塩素系洗剤（お風呂洗剤）と酸性製剤（トイレ洗剤）を混ぜ発生した塩素ガスで死亡した例など）などを意識し生活力を付け、賢い生活が営めるようになってくれることにうれしさを感じます。岐阜大学の私の研究室の話などを時々することにより海外での経験や留学生との交流など国際感覚を少しでも意識し国際的視野を抱き興味を持ってくれることを期待しています。



2. 今後の授業における目標

これまで同様生活に密着した化学の話をして卒業後も生活の中で起こる様々な現象や常に触れている様々な製品に対して賢く接しより充実した家庭生活、社会生活が営めるような講義内容を進めていくつもりである。理科嫌いの要因となる難しい反応式や計算式を使わず写真を少しでも多く取り入れわかりやすく楽しい内容にするように心がけている。

一部の学生さんから字が見にくいとの意見が毎年言われるが、現在は紙の節約のため自作のパワーポイントの4枚分のスライドを1枚の紙に印刷して配布しているため情報量が多いスライドの場合、字が小さくなって読みにくくなってしまうことがあります。現在、出版社に企画を提案し、その企画が採択されたため今回の講義内容を教科書として出版することにしました。1年以上かけて原稿を書き上げ現在脱稿の段階に来ている。令和2年10月ごろに刊行予定で、令和3年度にはその教科書を使用することが可能です。その後はこの問題も解決される予定です。従来以上に写真や動画を取り入れたよりわかりやすく魅力的な教科書になる予定です。

3. 受講学生に対する要望

ほとんどの学生さんが、まじめで素直でとても熱心に受講してくれています。しかしながら、一部の後ろのほうに座っている学生さん（今年の場合8名ほど）は、180度、後ろを向いて大きな声で話したり、講義中ずっと化粧をしたり机に伏せて最初から最後までずっと寝ていたりとても残念な学生さん（今年の場合2名）もいました。注意すれば聞き入れてくれますが長続きしません。

彼女らも素直で声を掛ければ人懐っこく素直に聞いてくれる学生さんでした。そこで、毎年講義室の前から後ろまで時々移動しながら彼女らに指導したり声掛けすることによってしっかりと前を向いて興味を持って講義を聴いてもらうように配慮しています。しかし、今年は毎回行う講義最後の感想欄や簡易レポートの自由記述欄に2名の学生さんから「男性が怖いのでうろろしないほしい」「近くで歩かれると聞きづらい」との要望が第1回目であり、教壇から動かないように講義せざるを得ませんでした。そのため講義内容は全員に聞き取れるように声の大きさに注意し、また聞き取りやすいように話しているので講義内容はすべての学生さんに届いていますが、問題のある彼女たちに声掛けができず昨年度まで実現できていた私が目指す完ぺきな講義環境ではなくも悪い環境になっていました。次回は、移動しながら声掛けできるといいですが、。

本学の教職員は これからも
学生みなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます



学生みなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それを受けての教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに、作り上げていきましょう。



総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和元年度後期は以下の科目担当教員が顕彰の対象になりました。

幼児教育学科	「保育原理」
幼児教育学科	「保育総合表現」
デザイン美術学科	「水彩画基礎」

